

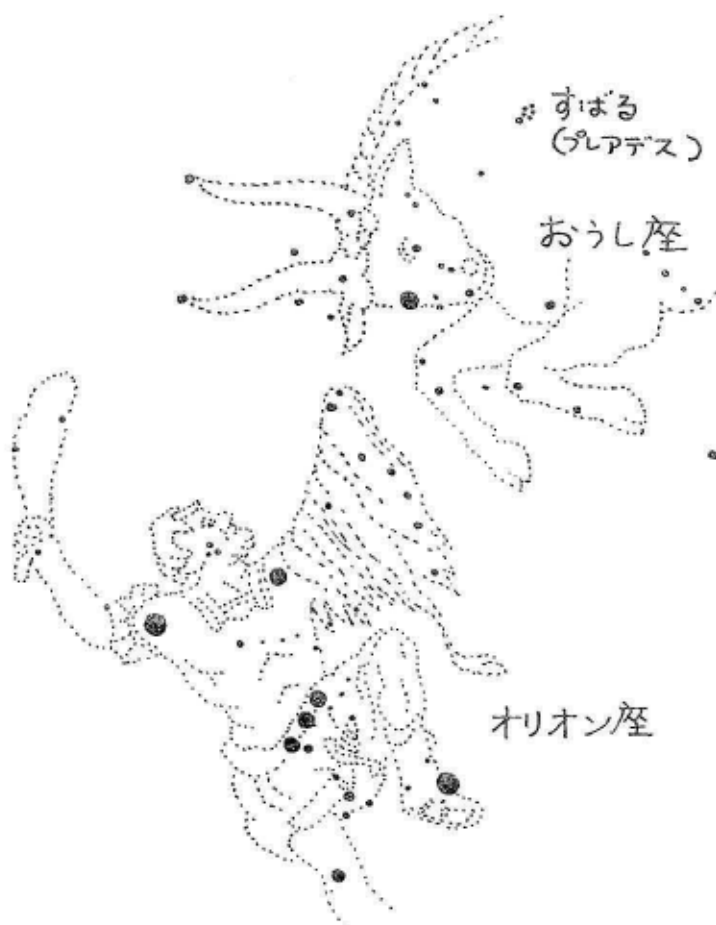
すばる

これは冬の星座・おうし座にあるかわいらしい星団の名前なのです。西洋ではプレアデスと呼んでいます。

ギリシアのプレアデス神話によると、天をささえている巨人アトラスとプレイオーネの間には七人の美しい娘がいました。ある月の美しい夜、森の草原で娘たちが踊っていると、獵師オリオンが現れてたわむれたので、月の女神アルテミスに助けを求めたところ、女神は娘たちをハ

トに変えて天へ
にがしてくれ
空へ昇った娘
たちは七つの
星になったと
伝えられてい
ます。

冬の星座を
なが
眺めると、
東の地平線上
には雄大なオ
リオンが手を



ふりかざして昇っています。それからずっと高い空にプレアデス星団が小さな星のかたまりとして見えており、神話を思い浮べて眺めてみると情景が良く浮んできます。プレアデス星団は、普通6個しかみえませんが、空気のすんでいるところで、特に目の良い人を見ると、十数個の星が数えられるといえます。皆さん方もいちどいくつか見えるか数えてみるとおもしろいでしょう。

この星団を最も美しく見るためには、双眼鏡を使って見るとよいでしょう。視野いっぱいには散らばった100個近くの星が、星団をつむ薄いガスによって、うるんだようにまたたいていて、他の星にない特別な美しさを持っています。プレアデス星団は私達から410光年のところにあり、天文学的にはまだ誕生して間もない若い星の集団で、生まれてから8000万年ぐらいと考えられています。私達の太陽は生まれて50億年ぐらいですから、いかにプレアデスが若いかわかります。

この星団の日本名「すばる」の由来は、集まって一つになる、という意味と、大昔の貴族が首につけた玉かざりの「スマル」だろうという説があります。この他に「ごちゃごちゃ星」とか「六通^つ星」などいろいろな呼び方があります。みなさんの家のおじいさん、おばあさんはどんな呼び方をしていたのかきいてみてください。(H.K)

富山市科学文化センター

建設準備事務局 営 32-7272

(内線 58・59)

〒930 富山市丸の内1-4-50 市立図書館内

昭和53年12月10日発行